

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300602		
法人名	社会福祉法人 祐寿会		
事業所名	グループホームよしき		
所在地	山口県山口市吉敷佐畑四丁目5番24号		
自己評価作成日	令和2年12月29日	評価結果市町受理日	令和3年5月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝、昼、夕の食事を事業所内で入居者と一緒に調理の下ごしらえを手伝って頂きながら提供している。食事の材料としてグループホームの庭の畑で育てた野菜を収穫し、季節を感じながら、楽しんでいただいている。食事の前には口腔体操や歌を唄ったりして嚥下や、むせ、誤嚥防止に努めている。上、下肢の運動や体操を行い下肢筋力を維持できるように支援している。午後はトランプ、脳トレ、縫い物、ぬり絵などをして過ごしていただき、気分転換を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、常に利用者と家族の全ての言葉に耳を傾ける姿勢で取り組んでおられます。毎月、家族宛に行事に参加している利用者の笑顔の写真を載せた事業所便りを送付されて、コロナ禍でも元気な様子が伝えられるようにしておられます。家族との面会に限られる中でも、ドア越しで短時間の面会をされたり、家族の希望でもある携帯電話のビデオ通話機能を利用されたり、職員から利用者の日頃の様子や好きなこと、できることに取り組みされている様子を積極的に伝えられるなど、利用者とその家族の思いを大切に支援しておられます。職員は毎月、看護師による事故発生時の対応や感染症が疑われる吐物の処理方法について学ばれるとともに、緊急時対応マニュアルを作成されて、事故発生や緊急時に備えての対応が身に付くよう取り組まれています。食事は三食とも事業所内で利用者と職員が一緒につくっておられ、毎月8回ある「お楽しみ会」では、利用者の食べたいものを献立にして調理や盛り付けをされるなど、食事づくりは食べる楽しみであり、持っている力を発揮する場でもあると、利用者は活き活きと取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作成した基本理念を常に意識して業務に取り組むようホールに大きく掲示して共有しながらチームケアとして実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、月1回のケアカンファレンス時には理念に添ったケアになっているかを話し合い、日々の実践では、利用者がその人らしく生き活きと生活できるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常は地域の福祉委員、民生委員さんが定期的に来苑され、お茶会や季節の行事に参加されたり、一緒に作品作りをして交流を深めている。また、近くの小学生や地域のボランティアさんにも来て頂き交流しているが今年2月からコロナ関係で開催できていない。	法人が自治会に加入し、自治会が発行する新聞や回覧板を通して地域の情報を得ている。地域で開催している夏祭りや「軽井沢通り」に参加して地域の人と交流している。今年2月からは、コロナ禍の中、地域の行事はなく、福祉員や民生委員の定期的な来訪もなくなり、地域の人との交流ができていない。事業所では法人の方針でもあり、利用者が新型コロナウイルス感染症にかからぬよう、ボランティアを含めて、外部からの来訪は全面的に断っている。4月時期に専門学校生や高校生の福祉実習を受け入れているが、現在は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などで地域貢献にむけた話し合いを行う様にしている。また、認知症についても理解して頂ける様に話をしているが今年にはコロナの関係の為出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年、各自で自己評価し、理解し意識統一するように取り組んでいる。また外部評価で指摘された項目に対し皆でGH会議で話し合い改善に取り組んでいる。	計画作成担当者(主任)は、職員に評価の意義を説明し、職員各自に自己評価の用紙を配布して、記録後に、管理者がまとめている。職員は各項目の内容を理解しており、自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、急変時のスムーズな対応ができるように緊急時、急変時のマニュアルを作成するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や現状を報告し情報、意見交換をし問題点などを話し合いサービスの向上に活かしているが今年はコロナ関係で出来ていない	会議は年6回開催し、利用者の状況や行事予定、活動状況、外部評価結果等について報告した後、話し合いをしている。今年度はコロナ禍の中、会議を一度も開催していない。	・止むを得ず会議を中止の際もメンバーに、利用者の状況や活動報告を行い、意見を得てサービス向上に活かす工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の現状や直面している課題の解決に向けて相談したり助言を頂いている。今年はコロナ関係で出来ていない。	市担当者とは、電話や直接出かけて、情報交換や相談をして助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、法人施設来訪時に情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修に参加し、身体拘束しないケアを勉強している。また、スピーチロックにも気を付けながら抑圧感のない暮らしの支援ができるよう環境に配慮したり、声掛けに気を付けてGH会議などで確認しながらケアにあたっている。	職員は、内部研修(スピーチロック)や伝達による復命(身体拘束と虐待)、「身体拘束廃止委員会」での事例を通して学び、身体拘束、虐待の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックに気づいた時には職員同士で注意し合っている。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば、外庭に出るなどして気分転換をはかり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や苑内研修に参加して虐待防止の学習をしている。入居者の日常の様子や内出血など観察し記録に残し虐待がないように注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでいる。今は利用している方はいない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居時にご家族に十分な説明を行い理解納得の上で署名していただいている。改定の際は口頭や書面でも説明しご理解をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受付体制を説明している。また、玄関にご意見箱を設置して意見や要望を伝えやすいようにしている。	相談や苦情の受付窓口や担当者、第三者委員、を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。契約書の中に職員苦情受付要領を記載し、全ての言葉に耳を傾ける姿勢を示している。意見箱を設置している。家族からは面会時や、電話、手紙で意見や要望を聞いている。毎月、家族宛に行事に参加している利用者の笑顔の写真を載せたA3の事業所便りを送付し、面会時には職員から利用者の日頃の様子を伝えて、意見が言いやすいように工夫している。意見や要望はモニタリングシートや介護記録に記録して職員間で共有している。面会は原則禁止しているが、感染予防に注意しながら、ドア越しの10分程度の面会を許可している。家族からはコロナ禍で会えないことやドア越しの面会では声が聞こえないことから、ラインによるビデオ通話をして欲しいとの意見があり、この意見を迅速に反映させ、家族からはとても喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	G・H会議や勉強会等で事業計画作成や進捗について聞く機会を設け意見を聞いている。	管理者(施設長)や主任は、月1回のグループホーム会議や委員会活動(身体拘束廃止、褥瘡対策、環境整備、感染症対策、給食、事故対策)、係り業務(新聞、行事、レクリエーション等)の中で、職員からの意見や提案を聞いている。日頃から管理者や主任から言葉をかけて、話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からはコロナ禍の中、空気清浄機の購入や事故防止に向けて、玄関チャイムの設置についてあり、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働法関係や内部諸規定に基づいておこなっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や苑内外研修参加させに参加させてレベルアップに努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度はコロナ禍の中受講できていない。拠点内(苑内)研修は、各委員会が年2回開催し、職員は全員参加(ノロウイルス感染症他)している。内部研修は、年間計画を立て、毎月1回、施設長や主任、担当職員が講師となって、接遇やコミュニケーション、認知症、感染症、ケアプラン等を実施する他、毎月1回、看護師による事故発生時の対応(意識消失、発熱、出血、転倒、頭を打つ、ケガなど)や感染症が疑われる吐物の処理方法について学び、実践力が身に付くように実践研修を実施している。職員は個々に年間目標を立て、半年毎に自己評価を行い、職員間で発表して自己啓発に取り組んでいる。新人職員は、1日間の法人研修終了後、日々の業務の中で主任や先輩職員から介護の知識や技術を学べるように支援している。法人では介護福祉士やケアマネジャー資格取得の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を通じて交流を進めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族やケアマネジャーから本人の生活歴や親しんで来られた事、日常の様子を聞き本人の思いや会話や表情を見ながら安心されるケアに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、日常の様子や要望、不安なことを聞いて関係づくりに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で本人の様子やご家族の話を聞きその時に必要なサービスを職員間で共有しケアプランを作成し支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の様子を見ながら洗濯干しや洗濯たたみ、テーブル拭きや調理など出来ることはやっていただき共に暮らしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や美容院、外食、外出、ドライブ、買い物などご家族の希望や本人の希望で外出の機会を作っている。また、ご家族との外泊を楽しみにしている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にいた頃の馴染みの友人やご家族が訪ねて来られている。また、友人やご家族と手紙のやり取りをしている方もおられる。	家族の面会(ドア越しや携帯電話のビデオ通話)や、親戚の人や友人が菓子や衣類を持参(ドア越しでの受け取り)しての来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。コロナ禍の中、直接の面会や家族の協力を得ることができないので、電話や手紙、ビデオ通話での交流を頻回に持つようにして、馴染みの人との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を同じテーブルにし会話や脳トレやトランプ、歌など一緒に楽しんで安心して暮らせるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた入居者でもご家族に言えば様子を聞いたり、同施設内に行かれた方には様子を見に行ったり、声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の記録の中から思いを把握している。また、意思疎通の困難な方には表情を見て思いをくみ取るよう努めている。	入居時には本人や家族からセンター方式のシートを活用して、長年馴染んだ習慣や好み、現在の状況等を聞き取り、思いの把握に努めている。日々の関わりのなかで利用者に寄り添い、利用者の表情や発した言葉、しぐさ、それに対する職員のヒントやアイデアを24時間シート(介護記録)に記録して思いの把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合って本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から聞いた情報や日常会話の中で本人から聞いて把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態を観察、把握し、レクリエーションや日常の活動の中で有する力を発揮していただいている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のGH会議でカンファレンスを行い職員間で話し合っている。カンファレンス前のモニタリングでは近況をご家族に伝え要望や意見を聞いて現状に即した介護計画を作成している。	利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心に、カンファレンスを3か月に1回開催し、本人の思いや家族の意向、医師、看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。24時間シートに利用者の状況や支援内容を記録し、目標に添った支援になっているかを、毎日確認している。3か月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の24時間シートに実践チェックや気づき、工夫を記録し職員間で共有し担当がまとめ3か月ごとの介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況その時々々のニーズに対し受診や日常の支援に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は地域の店を利用し入居者も一緒に行くこともある。また、地域の福祉委員や民生委員とお茶会やドライブを楽しんだり、近隣の小学校の児童との交流会もありとても喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は家族の希望を大切にしかかりつけ医を選んでいただいている。また事業所の看護師がかかりつけ医と連絡を取り合い緊急時は様子を伝え適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望している医療機関をかかりつけ医としている。かかりつけ医に受診の場合や他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科は2カ月に1回、歯科医と歯科衛生士の来訪による口腔管理を行っている。結果は「24時間シート」や「連絡ノート」に記録して、職員間で共有し、家族には電話で報告している。利用者の健康管理は、事業所の介護職員(看護師資格有)が行い、緊急時や夜間、休日は協力医療機関と連携して、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職は日中夜間入居者のちょっとした変化も看護師に報告し適切な受診につなげている。</p>	/	/
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の場合は情報提供書で本人の状態を知らせている。入院中も医療機関と情報交換を行い、退院時は情報をいただいている。</p>	/	/
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合は早めにご家族に伝えていく。事業所で出来る事出来ないことを説明しながら移設も含め今後の対応を話している。また、職員間でもどこまで支援できるか話し合っている。</p>	<p>重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合には、早い段階から家族と話し合い、本人や家族の希望に添って、法人関連施設や他施設、医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	カンファレンスで個々の状態を話し合い、ケアプランを作成したり連絡ノートで職員間に周知事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備え緊急時対応マニュアル作成し勉強会で学んでいる。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット記録や事故報告書にその日勤務の職員で話し合い、原因や対応、再発予防策を記録して回覧して共有している。月1回のグループホーム会議で再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。主任の判断で、拠点の「事故対策委員会」に報告するようになっており、今年度は無断外出事例1件他4件の報告をしている。事故防止に備えて、拠点でのヒヤリハットについての研修や内部研修で看護師の指導による感染症や意識消失、発熱、出血、転倒、頭を打つ、ケガについて実践を兼ねた研修を実施するとともに、「緊急時の対応マニュアル」を作成して、事故発生に備えている。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会、火災訓練2回/年、風水害訓練1回/年行い避難方法を習得できるよう努めている。火災の場合は地域の方の応援や協力体制を築いている。今年の7月は増水の恐れがあり同敷地内の施設に自主的に避難した。	防火管理者を中心に、年3回、(昼夜の火災を2回、風水害を1回)、利用者と一緒に、通報訓練や避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、防災機器の場所の確認を実施している。管理者は市防災課職員と話し合い、風水害時の避難レベルや避難場所を確認して災害に備えている。7月には近くの川の増水の危険があり、自主的に法人の関連施設に避難している。地域とは連絡網を作成し協力体制を築いている。非常用食品やカセットコンロを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に応じて入居者が不快な思いをしない程度の親しみやすい言葉を使っているが基本は人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねないような対応をを心がけている。	職員は内部研修(接遇、倫理、コミュニケーション)で学ぶと共に、管理者や主任の日頃の指導「人生の先輩として丁寧な言葉づかいと対応をする」を受けて、利用者を人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報も適切に管理し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個々の表情を観察したり会話の中から思いをくみ取り自己決定の支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はあるが、個々のペースを大切にし希望に添った支援をするようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューや昔召し上がっていたものを聞いて職員と一緒に買い物に行き、月8回のお楽しみなどで提供している。調理は出来るところは手伝って頂いている。	食事は法人が一括購入した食材や事業所の畑で取れた旬の野菜(玉ねぎ、さつまいも、白菜、ネギ等)を使って三食とも事業所で、利用者と職員と一緒に食事づくりをしている。法人栄養士の献立を基本に、利用者が食べやすいように形態や食器の工夫をして提供し、お品書きによる献立の紹介や食事中は静かにBJMを流すなど、食欲を高める工夫をしている。食前には嚥下の力を鍛える嚥下体操を行い、誤嚥防止に努めている。利用者と職員は同じテーブルについて、献立の話しながら同じものを食べている。月8回の「お楽しみ食」では、利用者の食べたいものを献立にして、調理から盛り付け、後片付けまで、一連の過程を利用者と職員と一緒にしている。食事づくりは食べる楽しみであると同時に利用者の力を発揮できる場でもあり、米を研いだり玉ねぎの皮むき、野菜を切る、胡麻をする、酢飯を扇ぐ、袋を開ける、混ぜる、盛り付け、テーブルを拭く、お盆を拭く、茶葉の袋詰め、お茶汲み、お茶を配る、盛り付け、下膳等、利用者一人ひとりができることを職員と一緒にしている。月2回の「クッキングの日」にはおやつづくり(レモンケーキ、芋羊羹、芋キントン、大学芋、ホットケーキ、バナナケーキ)に取り組み、好みのケーキを選べる誕生日、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、土用の鰻、ラーメン流し、年越しそば、餅つき、雑煮)、毎月1日には赤飯等、食事が楽しみなものになるように多くの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常は同敷地内の施設の管理栄養士がバランスの取れた献立を立てている。1日の水分摂取量は1日通して確保できるように提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前は緑茶でうがいをしていただき、食後は口腔ケアを支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿や排便の様子を一人ひとり記録し排泄パターンを把握して失禁を減らすように支援している。トイレを使用している時はプライバシーに配慮している。	24時間シートを活用して、排泄パターンを把握し、羞恥心や不安に配慮した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。紙パンツやバットの利用時には職員間で話し合い、根拠をはっきりさせ、家族の了解を得て使用している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い献立で水分摂取に努め、運動や体操で便秘を予防している。また排便状況を確認し、便秘薬の確認をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆったりと気持ちよく楽しめるように週2回の入浴を支援している。	入浴は毎日、13時30分から15時までの間可能で、週2回は入浴できるように支援している。順番や湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯等、利用者の希望に添って、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。職員は入浴時は利用者とのコミュニケーションの場としてとらえている。入浴したくない人には無理強いしないで時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴、部分浴、シャワーチェアの活用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションなどにお誘いして活動的に過ごしていただき夜間の良眠につながっている。また、体調やその日の気分に合わせて自由に休息して頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際に看護師より報告を受け薬についての副作用や用量について共有している。日々の服薬支援において症状の変化の観察、記録をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔農業をされていた方には畑で野菜を植えたり収穫の手伝いをして頂いている。また、洗濯干しや洗濯たたみ、縫い物、調理をしたり活躍の場を提供し、好みの飲み物を飲んでいただき気分転換をされている。	掃除、カーテンの開閉、枕カバーやシーツの交換、洗濯物をたたむ、洗濯物を居室に収納する、花を生ける、花瓶の水を換える、食事の号令、プランターの水やり、収穫(さつま芋、じゃが芋、胡瓜、トマト、ピーマン、茄子)、月8回のお楽しみ食事づくり、おやつづくり、テレビ視聴、利用者が参加した行事のDVD視聴、ラジオを聞く、本や雑誌、新聞を読む、写真集を見る、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、紙細工で壁画(牛の絵馬)づくり(切る、貼る、丸める)、習字、短歌や俳句をつくる、歌を歌う、いろはかるた、トランプ、坊主捲り、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、なぞなぞ、しりとり、ゲーム(犬棒かるた、絵合わせ、ペットボトルの蓋でゲーム)、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、四字熟語、間違い探し)、ドライブ(季節の景色を見る)、誕生日など、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲のドライブなどの外出支援をしている。ドライブでは要望をお聞きして季節感をたのしんでいただいている。	周辺の散歩や外庭での外気浴、日光浴、季節の花見(桜、つつじ、紅葉)、ドライブ(車窓から季節の景色を見る、気分転換を図る)など、コロナ禍の中、利用者の希望とその日の天候を考慮し、ドライブでの外出ができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はない。実際にお金を使われる事もない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って電話を掛けたい方には取り次いだり、手紙を書かれた方には職員が預かり投函している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には花を植え、季節を感じて頂いている。また、施設内の壁や玄関には入居者の手作りの貼り絵や行事などの写真を貼って楽しんでいただいている。	玄関から続くホールはガラス窓が多く、中庭から自然光が差し込み明るい。中庭にはプランターに季節の花が植えてあり、季節を感じることができる。室内には季節の花を飾り、大きな机や椅子、テレビの前には大きなソファが配置しており、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。ホールの中央奥にあるキッチンからは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。壁面には行事に参加している利用者の笑顔の写真や共同作品の牛の絵馬、習字を飾り、理念を掲示している。自然光をカーテンで調節し、温度、湿度、換気、清潔、入室時の消毒をして、職員は全員マスクを着用して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になられることは難しいが、一人になりたい特は自由に自室に戻られている。各テーブルは気の合った方同士会話やレクリエーションが楽しめるように支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の思いを尊重し馴染みの物やテレビやラジオを持ってこれ楽しまれている。	室内にはベッドや箆笥、机、椅子、小テーブル、仏壇、テレビ、時計、衣装掛けスタンド、ぬいぐるみ、整容道具等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダーを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には顔写真やお名前を記したり、共同トイレには大きな字で張り紙をしたりして安心安全な環境作りに努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームよしき

作成日: 令和 3 年 5 月 27 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	介護度が高い利用者の排泄介助、入浴介助、夜勤中の便汚染の対応等、全職員が対応力、実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員が慌てずに対応できるように、介助の方法や対応の仕方を身につける。	毎月の勉強会で課題を決め、事前に勉強をしておき、一人ずつ実践した後、皆の意見を聞きながら身につけていく。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。